

コミュニティ・スクール委員会

[iCS] だより



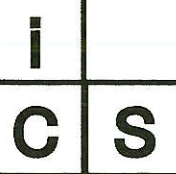
令和7年度12月号

板橋区立新河岸小学校

コミュニティ・スクール委員会

令和7年12月15日(月)

校長 金子 陽子



コミュニティ・スクール

第4回委員会開催

○日時 十二月一日(月) 十四時より十五時三十分まで

○場所 本校二階ランチルーム(さくらそう)

○出席者 十名(三名欠席) オブザーバー四名出席

板橋区より五名

○内容・議題

- ・ iCS委員長、学校長挨拶
- ・ 来年度の入学予定者数
- ・ 二期の学校の様子
- ・ iCS委員より

朝晩、随分冷え込む日が続くようになってきました。いよいよ師走、この一年が終わろうとしています。そのような慌ただしい中ですが、第4回目のiCS委員が行われ、学校の小規模化問題、今後の取り組み、及び小規模特認校指定に関する要望書に関する議論がなされました。iCS委員長、学校長挨拶の挨拶では地域コーディネーターとしての活動報告や金子校長からは二期の充実した活動や今後の予定について説明があり、配付資料(高島平新聞の記事、新河岸ミュージカル、キッチンカーの朝ごはん、年間行事予定案、新河岸小学校ナビ)についての説明がありました。新河岸ミュージカルでは332名の観客を集め、プロのオペラ歌手と共演しました。キッチンカー

での朝食提供、キッズバンドの高島平まつりや運動会での演奏、常盤山部屋の力士との交流、運動会でのTシャツ着用と校庭でのお弁当等、多様な活動が紹介されました。これらの活動より遅刻の減少や学年を超えた交流が促進されています。また、高島第五小学校との交流やデフリンピックの観戦、今後予定されているドローンの実証実験など、特色ある教育についても説明がありました

今回のiCS委員会では板橋区からも波多野技監を始め、5名が来校され、新河岸小学校の児童数の現状と今後の見通しについて報告がありました。まず、現在の児童数は108名で、五月と比較して4名増加しており、引き続き児童数回復に向けた取り組みが重要であると強調しました。

板橋区の波多野技監から、ユネスコ創造都市ネットワークの取り組みとして板橋キッズシンガースの設立や演劇活動の説明がありました。これらの文化芸術活動の拠点として新河岸小学校が選ばれ、練習活動として活用される予定です。この取り組みは新河岸小学校の特色作りにも貢献し、小規模特認校としての魅力向上にもつながる可能性があります。

金子校長先生と竹内委員長から、新河岸小学校の小規模特認校指定に関する要望書の草案が提示されました。小規模特認校制度は学区外からの入学、転学を認める制度で、新河岸小学校の特色を活かした教育活動を継続するために有効な手段として提案されました。竹内委員長からは、板橋区がまだこの制度を採用していないため、まず制度の

導入を求め、その上で新河岸小学校の指定を要望する二段階のアプローチが必要との説明がありました。また、委員からは外国籍の児童の受け入れや不登校児の支援など、小規模校ならではの取り組みについての意見が出されました。

会議の最後には学校、存続のため長期的な戦略について意見が交わされました。星野委員からは、学校の継続的な関与の重要性が強調されました。栗田委員も同意し、長期的な視点での取り組みの必要性を訴えました。飯塚委員からは、都営住宅の立て替えに伴う若い世帯の誘致について2023年から子どもが一人でも応募できるようになった制度変更を活用すべきとの提案がありました。しかし、ファミリータイプの部屋が少ないという課題も指摘されました。

以下、まとめると次のようになります。

- ・ 竹内委員長が小規模特認校指定に関する要望書を修正し、最終版を作成する。

- ・ 委員会として教育委員会に小規模特認校制度の導入と新河岸小学校の指定を要求する。

- ・ 工業会と町会が協力して都営住宅の建て替えに伴う若い世帯の誘致を都に働きかける。

- ・ 板橋キッズシンガーズの設立に向けて新河岸小学校を拠点とした活動を支援する。

- ・ 武田中学校長がiCS委員会で板橋キッズシンガースについて話題にし、中学生の参加可能性を検討する。

- ・ あけぼの会の協力を得て、地域の高齢者と学校の連携を強化する。

皆様貴重なご意見ありがとうございました。

10月11日(土) 新河岸ミュージカル「ナイチンゲール」



11月8日(土) 運動会 鼓笛隊



11月8日(土) 運動会 台風の日



11月12日(水) 校外学習 赤塚公園



11月30日(日) 大縄跳び大会



12月6日(土) 逃走中

